



TITLE:

<研究・技術報告>瀬戸臨海実験所 における気象観測データ : 2006年- 2011年

AUTHOR(S):

山本, 善万

CITATION:

山本, 善万. <研究・技術報告>瀬戸臨海実験所における気象観測データ :
2006年-2011年. 瀬戸臨海実験所年報 2012, 25: 29-31

ISSUE DATE:

2012-07-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/179265>

RIGHT:

瀬戸臨海実験所における気象観測データ：2006 年－2011 年

山本善万

Meteorological observation data from 2006 to 2011 years at Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University, Japan

Yoshikazu Yamamoto

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459 京都大学フィールド科学教育研究センター
瀬戸臨海実験所

はじめに

瀬戸臨海実験所は、1953 年(昭和 28 年)から気象観測(天気、雲形、雲量、風向および風速を目視観測)を続け、1970 年(昭和 45 年)から水温、塩分、波浪などの沿岸観測を 1992 年(平成 4 年)まで定時に実施していた。しかし、各観測機器の老朽化により正確なデータが得られなくなり、この観測を一時終了した。自記記録計(アナログ記録紙)からデータ解析装置(データロガー)の導入によって測定が可能となり、自動気象観測(風速、風向、降水量、気圧、気温)を、2005 年(平成 17 年)10 月から観測データをデジタル化し、データ収集をパソコンに保存することにより観測を継続した。

その結果、まとまった最近 6 年分の気象データ、2006 年(平成 18 年)1 月から 2011 年(平成 23 年)12 月までの平均風速、最大風速、最大風速の風向、最大風速の・方位、降水量、気圧、平均気温、最高気温、最低気温を報告する(付表)。

測定方法

風速、風向、降水量、気温は、実験所研究棟屋上に設置したプロペラ発電式風速計・飛行機型風向計による 0～24 時の自記記録の結果による。風速は 10 分毎の平均値 m/sec で、その時の風向を方位で

示す。気温はシェルター内の気温センサーで平均気温(℃)を測定した。降水量は、実験所研究棟屋上に設置した転倒ます式雨量計(0.5 mm)による自記記録の 0～24 時の総雨量である(図 1)。

特例記録(2011 年襲来 of 台風 12 号による大雨)

2011 年(平成 23 年)8 月 25 日に発生した台風 12 号(マリアナ諸島近海で発生)は、和歌山県内の各地で大雨となり、降り始めの 9 月 2 日 16 時から 9 月 4 日 24 時までの総雨量が、実験所で 651.0 mm を観測するなど、記録的な大雨となった。また、3 日 19 時の 1 時間に 45 mm、3 日 20 時の 1 時間に 47.5 mm、4 日 0 時には 79.0 mm の猛烈な雨を観測した(図 2)。

台風による最大瞬間風速は、3 日 21 時 40 分に南南西の風 31.3 m を観測するなど暴風が吹いた(図 2)。白浜町は紀伊半島西岸にあるため被害は最小限で済んだ。

なお、この台風の影響で、和歌山県内では死者 35 名、行方不明者 33 名、負傷者 6 名、住宅の全壊・半壊合わせて 71 棟、住宅の床上浸水 1176 棟、床下浸水 967 棟などの被害が発生した。

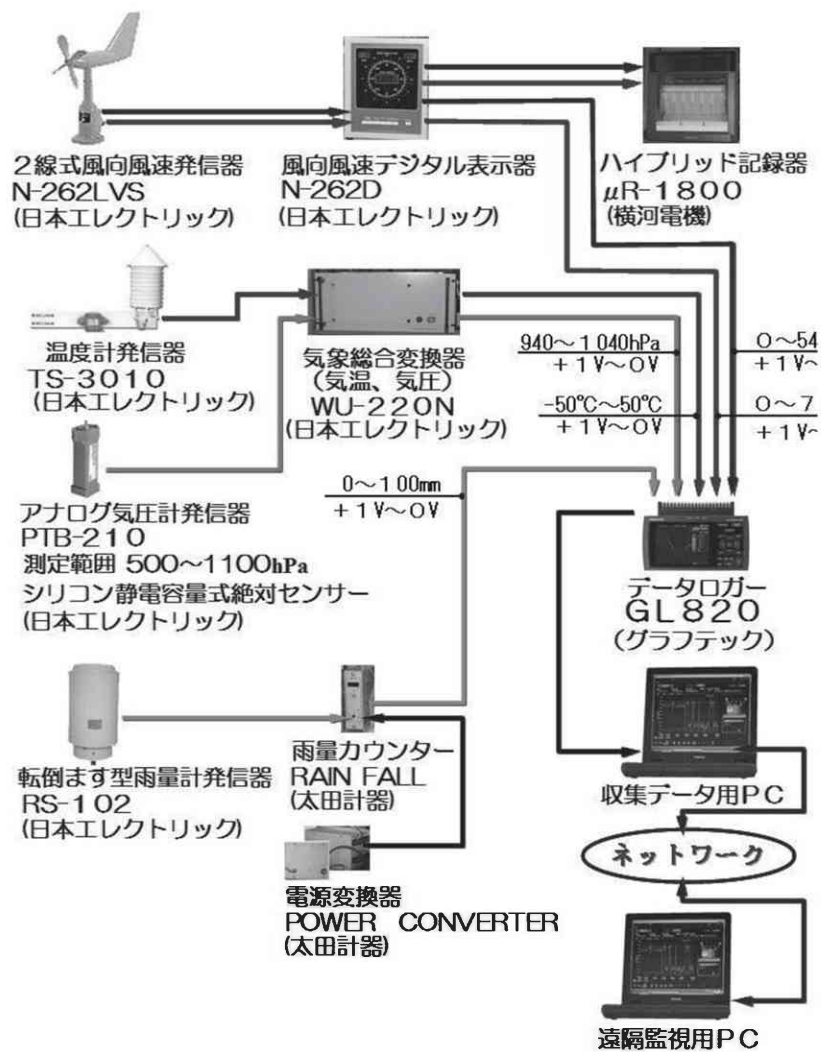


図 1. 瀬戸臨海実験所気象観測システム

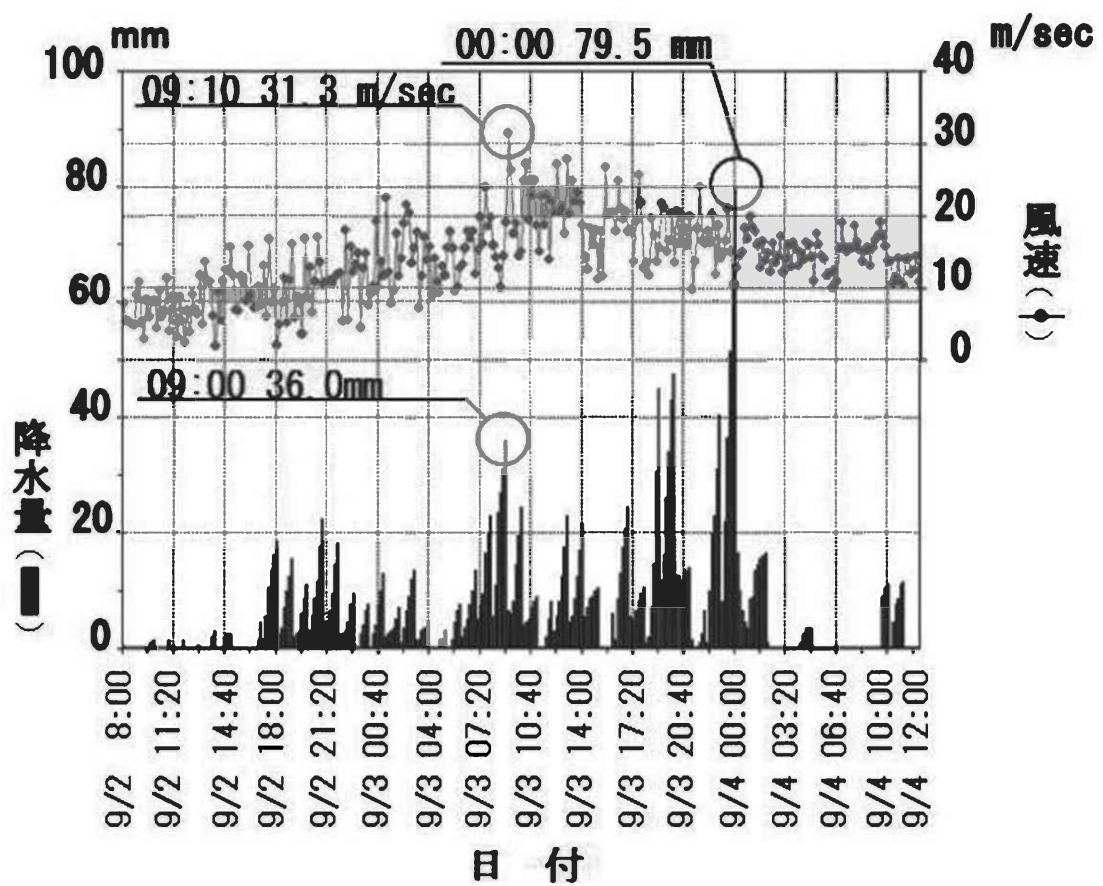


図 2. 台風 12 号に伴う風速と降水量 (2011 年 9 月 2 日 8 時～4 日 12 時)